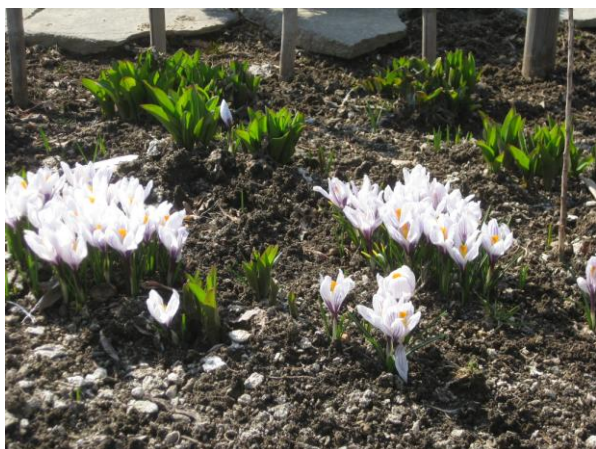




栃の木からの手紙

2016年 5月号



早いと思える雪融け（4月5日）、暖かい春の訪れ。生活上は、過ごしやすい季節の訪れですが、…レイチェル・カーソン 「沈黙の春」…、何かおかしい、変だ。農作業が早まると考えていたが、停滞している。

ヒバリが来ているがあまり鳴かない。例年では、雪融け途中でヒバリが遣って来て鳴き始める。

今年は、雪融け後にヒバリが鳴いた（4月6日）。雪融け後直ぐに目にする庭の花は「サフラン、クロッカス」。今年は、4月17日漸く咲き始めた。

5月 阜月						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

過去の記録を見ると、今年のようにヒバリが4月6日、セキレイが4月9日に確認された年は、1999年。この年、雪融けは4月16日、サフランは4月21日、桜は5月11日開花。さて今年の桜の開花は何時になるのかな？

5日： 立夏

7日： 新月 :旧 4月 1日

8日： 母の日

20日： 小満

21日： 家庭菜園セミナー マナビティーセンター

22日： 満月 :旧 4月15日

4月9日午後、有機JASの検査員が札幌より来て自然農法畑の有機JAS認証の検査を行いました。書類のチェックと現地調査を行い、後日、認定書が送られてきました。これにより、オホーツク高橋農場での昨年度の有機圃場での農産物の生産から出荷まで有機JASとしての管理が行われている事が認められ今年も、その圃場で有機農産物の生産を有機管理の基で行う事が許されました。

4月16日午後には、MOA自然農法の更新研修が行われました。平成28年4月1日より、MOA自然農法のガイドラインが大きく変わりました。

① MOA自然農法と有機JASの使用可能資材が同じになりました。

(今まで有機JASでの認可資材で使用出来ない資材が自然農法にはありました。)

② MOA自然農法の分類の変更

MOA自然農法プレミアム … 動物性資材不使用 (新しく追加された)

MOA自然農法 … 動物性資材使用

MOA自然農法転換期間中

MOA特別栽培

(自然農法とはいえ、資材に依存する生産者と、無肥料・自然栽培を目指す生産者との二極化が進み、資材依存の自然農法を批判する声も聞こえる様になって来た。

現実問題として、化学物質過敏症やアレルギー性疾患に悩む人が増えつつあり、資材を使わない自然農法農産物が求められている。)

平成 28 年 4 月 1 日に施行

MOA 自然農法ガイドラインの改定

改定のポイント

1. 本文の改訂

- ①MOA 自然農法の栽培について定義を明文化
- ②家畜糞堆肥および補助資材を代替技術の位置付けに
- ③心得に「地産地消を基本にする」を追加
- ④実践のあり方の項目ごとの考え方をより明確化
- ⑤連作を追加

2. 新しい表示（暫定）がスタート

（平成 28 年 4 月 1 日 1 年間の経過措置を設ける。）

- ①マーク表示のみから文字表示を追加
- ②「MOA 自然農法プレミアム」表示を新設
- ③「MOA 自然農法プレミアム」表示は、「動物資材不使用」の文字表示を自然農法マークに追加
- ④生産者のこだわりを個別で文字表示
- ⑤「MOA 特別栽培」表示は「化学肥料不使用、農薬〇〇減」の文字表示を特別栽培マークに追加

3. MOA 自然農法用資材の認可細則の廃止

- ①「MOA 自然農法」は有機 JAS 規格に適合した資材が使用可



一般社団法人 MOA 自然農法文化事業団

2. 新しい表示（暫定※）

※ 1 年間の経過措置期間を設け、文字表示等のデザインを定めます。

区分	表示（暫定）	区分	表示（暫定）
MOA 自然農法 プレミアム	 動物性資材不使用	MOA 特別栽培	 化学肥料不使用 農薬〇〇減
MOA 自然農法		MOA 自然農法 転換期間中	MOA 自然農法転換期間中

※生産者のこだわりを個別で文字表示できます。